

1. 4/13(水)

「歴史の名言から未来を読む」

竹中 平蔵 (たけなか へいそう) 慶應義塾大学名誉教授、東洋大学教授

「愚者は経験に学ぶ、賢者は歴史に学ぶ」。あの偉人は如何にして困難な時代を乗り越えたのだろうか。内外の偉人の人生経験や名言を味わうことで、本質を見極め、来るべき未来を読む力を養いたい。最新トピックから古典まで分かり易い言葉で語る竹中流・温故知新の90分。

2. 4/14(木)

「長期利益の源泉を考える:オポチュニティとクオリティ」

楠木 建 (くすのき けん) 一橋大学大学院国際企業戦略研究科 教授

洋の東西、時代の今昔を問わず経営のゴールは長期利益にある。経営戦略論の論客楠木教授が、外部環境の機会に利益の源泉を求める「オポチュニティ企業」と独自価値の創造に重きを置く「クオリティ企業」を対比し、これからの日本の企業の競争戦略の指針を提示する。

3. 4/19(火)

「継続する心」

山本 昌 (やまもと まさ) スポーツコメンテーター

ドラゴンズ一筋にプロ生活32年。41歳でのノーヒットノーラン、43歳での200勝達成をはじめ、数々の史上最大記録を更新した球界のレジェンド。中年の星と称された山本氏が、成果を出すために、自分の身体と精神に向き合い、確立した自己マネジメント手法を熱く語る。

4. 4/27(水)

「なぜあの人は経営のプロと呼ばれるのか？」

山根 節 (やまね たかし) 早稲田大学大学院教授(ビジネススクール)・慶應義塾大学名誉教授(ビジネススクール)

「日本企業の弱点は経営トップにある」「日本の経営者は経営をしていない」と言われるが、我が国にも、少ないながらも経営のプロと目される人たちがいる。実務家から研究者に転身し合計40年以上のキャリアを重ねる山根教授が、事例を通して経営者の役割を解説する。

5. 5/27(金)

「悪との向き合い方」

姜 尚中 (かん さんじゅん) 東京大学名誉教授、熊本県立劇場館長

人間関係の希薄化と閉塞感が漂う社会の中で空虚になった心に悪という病が宿り増殖していく。一方では悪を憎む心の奥で、人は社会との繋がりを求めている。国内外で続発する凶悪事件や憎悪の連鎖を目の当たりにするいま、姜教授と内なる感情との向き合い方を考えたい。

6. 5/31(火)

「安心社会から信頼社会へ」

山岸 俊男 (やまぎし としお) 一橋大学大学院国際企業戦略研究科 特任教授

集団主義的で信頼社会の日本、自己優先で個人主義のアメリカ。我々の思い込みは日米での調査・実験結果で大きく覆った。ムラ的社会的しがらみから得られる安心を信頼と取り違えてはいけない。山岸教授が安心、信頼社会を解説、日本が真の信頼社会へ移行すべき理由を説く。

7. 6/2(木)

「自然と地域が共生を目指す～共に育み、共に栄える、100年先の企業づくり～」

石坂 典子 (いしざか のりこ) 石坂産業株式会社 代表取締役

「産廃銀座」が各国から視察が訪れる里山に生まれ変わり、経営の透明化で地域の住民に受け入れられる存在に成長した。現代社会に不可欠なのに嫌われ、虚偽のマスコミ報道から経営危機に陥った産廃企業の経営を受け継ぎ、再生を果たした石坂社長がその軌跡を語る。

- ・講演テーマ等は2016年4月1日現在の予定です。都合により変更となる場合があります。
- ・講師は東京会場で講演を行います。
- ・明石夕学サテライトはインターネット配信を使用した映像を視聴する講座です。
天災等の場合、配信の中断、または当センターでの受信ができなくなる場合がありますので、予めご了承ください。
- ・お申し込み後、やむを得ずキャンセル・欠席される場合は、できるだけお早目にご連絡願います。

8. 6/8 (水)

「女性マネージャーを育む、活かす、押し上げる」

高田 朝子 (たかだ あさこ) 法政大学経営大学院イノベーション・マネジメント研究科 教授

政府の掛け声とは裏腹に、ビジネスの現場では女性達が昇進しながらないという声を聞く。一方で女性達からは、会社は男性と同じ振る舞いを女性に求めているだけだという不満も生まれている。気鋭の経営学者高田教授が女性マネージャー育成の課題と具体的な方策を説く。

9. 6/16 (木)

「ラグビー日本代表チームを変えたメンタルコーチ」

荒木 香織 (あらか きかおり) 園田学園女子大学人間健康学部 教授

昨年のW杯で強豪南アを倒し、世界を熱狂させたラグビー日本代表。その陰には、選手と気さくに接しながらチームを支えたメンタルコーチがいた。日本ではまだ少数派のスポーツ心理学で大きな成果を出した荒木准教授がエピソードも交え自律的メンタルマネジメントを語る。

10. 6/20 (月)

「いつも明るい心で生きて行く」 ※休館日ですが開催します(北側正面入口より入館下さい)

塩沼 亮潤 (しおぬま りょうじゅん) 仙台市・秋保 慈眼寺 住職

標高差 1300m 超、往復 48km の山道を足かけ 9 年、春夏の入山可能な 1000 日にわたり 1 日も休まず歩き続けた。翌年には断食、断水、不眠、不臥を 9 日間続ける四無行を敢行。この 1300 年に達成者は 2 人目という苦行を為し終えた塩沼住職が、その経験を通じて見えてきた世界を語る。

11. 6/30 (木)

「東京オリンピックに向けての陸上改革」

原 晋 (はら すずむ) 青山学院大学陸上競技部監督

並み居る強豪を抑えて箱根駅伝連覇を遂げたチームは従来の常識を覆す監督の下で生まれた。実業団での挫折や伝説の営業マン時代の経験を活かし大きな成果を上げている原監督が選手の自主性とモチベーションの醸成方法、東京五輪に向けた社会人選手育成計画の抱負を語る。

12. 7/1 (金)

「日本列島に迫り来る火山と地震の危機 -「大地変動の時代」を生き延びる-」

鎌田 浩毅 (かまた ひろき) 京都大学教授・地球科学者

御嶽山、箱根山などと噴火が続いている。火山学を専門とする鎌田教授は、日本は千年ぶりの「大地変動の時代」を迎えたと予言する。取り沙汰されている富士山噴火の可能性も含め、我々はいかにして生き延びれば良いのか、地球科学の視座と対策を踏まえた話を聞きたい。

13. 7/8 (金)

「日本の妖怪文化 -その歴史と特徴-」

小松 和彦 (こまつ かずひこ) 国際日本文化研究センター 所長

八百万の神々が住まう国には妖怪もまた数多く生息している。畏敬から娯楽の対象と変化を遂げ、科学が発達した現代でも我々を惹きつける物の怪達を生んだ文化の構造や特徴とは?文化人類学者で民俗学にも造詣の深い小松氏が妖怪から日本人の自然観や精神性を読み解く。

14. 7/13 (水)

「実践経験を通じて培った実践知としての「リーダーシップの哲学」 -リーダーシップ・ジャーニーを歩むために-

一條 和生 (いちじょう かずお) 一橋大学大学院国際企業戦略研究科 研究科長 教授・IMD 特任教授

「リーダーシップの発揮とは、自分らしくなることに他ならない」、リーダーシップ研究の第一人者一條教授はそう喝破する。日本が直面している課題を考えながら、より多くの人々がリーダーシップ発揮の旅、つまりリーダーシップ・ジャーニーへと旅立つことを熱く訴える。

15. 7/28 (木)

「CSV 経営 -高収益と社会問題の同時解決を目指す」

名和 高司 (なわ たかし) 一橋大学大学院国際企業戦略研究科 特任教授

マッキンゼーのディレクターとして、20 年間コンサルティングに従事した名和教授。「Creating Shared Value」という最先端の経営モデルを踏まえ、日本企業が次世代成長を目指す上で、社会が抱える課題を解決しつつ、経済価値を追求するためには、どうすべきかを提言する。